



2012年11月10日

創刊号

【特集】

芸術の意気をつなぐ

第77回『西相展』開かれます

連綿と77回目の歴史を刻む『西相美術協会展』が10月10日、14日、小田原市民会館で開かれ、協会会員、一般、高校生らの絵画、彫塑など226点が展示されました。受賞22作品と合わせ、高校生の部では未来の画伯を感じさせるような75作品から、繋がれていく芸術の意気を感じた展示会で、多くの人で賑わいました。

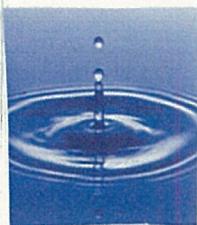


西相美術協会賞
受賞作品に
加藤迪余さん『想い出』

好きです。
仮面とワインが

受賞された加藤迪余さんはイタリアを取材旅行した折に入手した好きなワインの数々と気に入った仮面を被った人のポスターを繪の構図に取り入れ、木箱に入れた神秘なる様相の仮面とグラスを配置して海外での想い出をめぐらすものにされました。奥に秘められた熱き情熱を感じました。





こよなく絵を愛した先人達、現会員、皆さま方から
”支えられ”て連綿と歴史を刻む西相美術協会。
その協会を代表する御二人に芸術への熱き想いを
伺いました。



「頭でっかち（？）」という
タイトルの抽象画を出品され
た豊島会長は、「最近の人は
あらゆる情報源（音楽、TV
、雑誌等）の中で生活し、自
分ではコントロールできない
程の多量なる情報を抱えてい
る。その異様な状態は頭でっ
かちそのものよ」と。故岡本
太郎氏とも話した事もあり、
絵を描くのはバクハツと同じ

絵描き人の真髄に出合った瞬間。きらき
らと目を輝かせて熱く語る豊島シズ枝
協会会長のパワーに圧倒されました。
「頭でっかち（？）」という
タイトルの抽象画を出品され
た豊島会長は、「最近の人は
あらゆる情報源（音楽、TV
、雑誌等）の中で生活し、自
分ではコントロールできない
程の多量なる情報を抱えてい
る。その異様な状態は頭でっ
かちそのものよ」と。故岡本
太郎氏とも話した事もあり、
絵を描くのはバクハツと同じ



「ときめきの色が出た時は至福にも似た瞬間ですね。」

斎藤四郎 協会副会長のやさしさとほとぼしる情熱に
アートへの深い愛を感じました。

同協会副会長としても要
職にある斎藤四郎様から、
絵を描く側からの創作への
思い、絵の見方等をエピソ
ードも含めてお聞きする事
ができ、特に興味深かつた
のは、「油絵の場合、絵具を
重ねていく内に予期しない
かったすばらしい色相の発
現に遭遇する時もあり、こ
のチャンスをいかに多くす
るかが出来栄えの鍵に…
」と。

また「一般的に良い絵と
は、バランスが取れてる絵
である。何か違和感を感じ
てしまうのはそのバランス
が無い絵となる。特に審査
時には色相とか、受賞名に
応じた品相（風格）も備わ
っているかもポイントとな
る。審査員側の相応の苦労
もありますね。」等、普段で
は聞けない貴重なコメント
を頂きました。

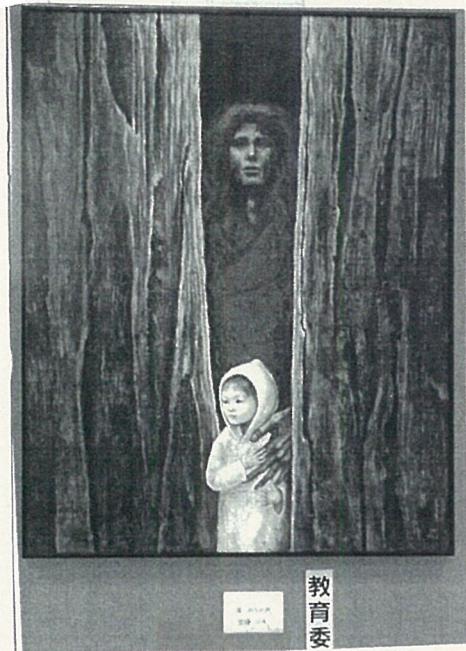


「絵は心の発散、私の即興だ！
岡本太郎の爆発に通じる…」



作品から”それぞれの物語”が生まれる。
その脚本家は鑑賞するあなたです。
芸術鑑賞は、そんな想像を描き立てる事のできる
”こころの泉湧く処”かもしれません。

黒い大きな手が少女へ！



教育委

安藤ニキさんはご自身で「NIKIwebsite」を開設しており、このwebにアクセスして受賞作品のコメント人を頂きました。作家、詩人と多彩な顔を持ち、絵はニキさんが持つ特異な世界を表現されています。
是非ご覧下さい。



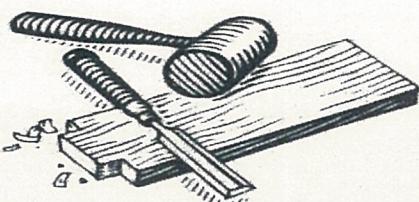
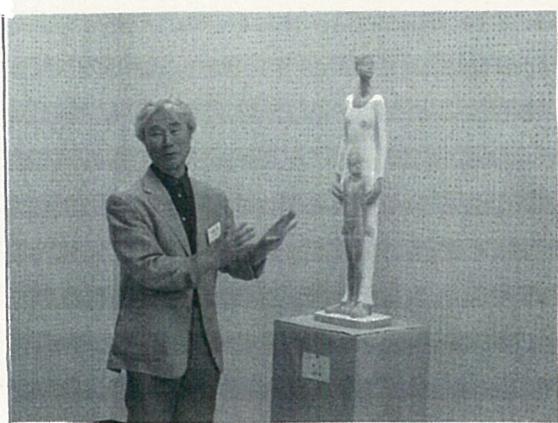
一見すると後ろに立つ怖そうな男の存在が不気味に感じます。少女に差しのべられた手は、実は抱擁力のある手との事でした。少女が感じる二つの声があり、一つは後ろの男の人の発する声と（画面の）外から発せられる声の二つであり、いずれも過去从未 来またはあの世からのものかもと・・・

「少女が感じる二つの声とは・・・」
安藤ニキさんの『遠くからの声』

土屋 健さんの『母 子』

「人間が好きになり、その表現方法に拘る。」

薄い板が、母と子の温もりと生きる伸びやかさを感じるものへと変わりました。



最終日の14日午後に4人の創作者とギャラリーとのトークタイムがあり、中でも出展が8件と少なかつた彫刻の部で、土屋健様からは『母と子』という木彫り作品に込めた“人間の尊厳、温かさを感じとつてもらえば・・・”と。また、作品を横から見たら、非常に幅の薄い板状になっており、真正面から見た膨らみ、人間の持つ伸びやかさを上手く形成されていました。

ギャラリートークから



ギャラリートークは作品のお話会として、創作者自身の生の声が聞け、鑑賞者との触れ合いを通じた新たな発見の時もあります。



神部修成さん作品「時空に彩る」の説明

又歴史が刻まれ、

芸術の意気は次代へとつながれる。

未知の力を秘めた高校生出展者の声に

きらりと光るものを見た。

未来の画伯が勢揃い！

自作品を爽やかな笑顔で熱心に語つてくれた高校生諸君、「若さつていいな、これでつながる」そんな思いにさせてくれた。

今回、高校生の部から7点が展示され、例年通り受賞対象外ですが、中にはセザンヌ画の模写と言えどプロ級の腕前がとも見間違う程の色合いを醸し出しているのも見受けられ力作揃いででした。

創作者である高校生本人の多くが自ら西相展を熱心に見学されていました中、十数人に創作の意図なりを聞く事ができ、夢、期待、もの

がたりなどを投影した絵や地球環境、世相へのメッセージを表現した創作物等、ほどほほしる若い感性を身近に受けて非常にすがすがしい印象でした。



受賞者一堂に、 そして意気を次代に！



豊島シズ枝協会会長は後列左から2番目

【編集後記】

プロの芹川明義講師の指導による情報紙づくりは、全てが初体験の人

、現職業と関連性がある人、絵心のある人等、多種多彩のメンバーとなりました。テーマは西相展の取材をもとに、情報紙としての創刊号を全5回で作り上げる事で先ずは無事?

キックオフ。インタビュー、写真撮り、レイアウト、文章校正等何でもかまいませんが、講師とメンバー間の協同で何とか完成に漕ぎ着けました。

ありがとうございました。また、講師として行きましたので頑張つて下さい」との熱いお言葉でした。受賞者の中には、ミニスカートでファッショナブルにコーディネートされた若い方も居り、和やかな雰囲気でした。

最大の成果は、出展者（会員、一般、高校生）との生の触れ合いから、芸術の持つ独自の世界観を堪能でき、創作者の心意気（しづく）を十分に感じとる事ができた事です。

【スタッフ】

加藤・多くの人と芸術の素晴らしさに出合い、新鮮さ、感動、エネルギーを得た楽しい6日間でした。

椎野・
草柳・どんな大河でもその源流は一滴のしずくから。秋には市民総出でアートの収穫祭。そんな街小田原を夢見ての創刊です。

